

京都大学 経済学部

経済学部データ科学応用基礎プログラム

(応用基礎レベル)

令和4年度 自己点検・評価報告書

1. 自己点検・評価の実施

京都大学経済学部で提供された文部科学省 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）相当の「経済学部データ科学応用基礎プログラム」に含まれる科目について、経済学部教科委員会および経済学部 FD 委員会が自己点検・評価を行った。

2. 自己点検・評価の対象科目

自己点検・評価の対象の科目は以下の通り。

「経営情報論」「意思決定論」

3. 点検項目と評価レベル

経済学部データ科学応用基礎プログラム（応用基礎レベル）について、以下の点検項目に関して自己点検および評価を行った。

- ・教育プログラムを構成する科目のシラバス
- ・教育プログラムの履修・習得状況
- ・学修成果
- ・学生アンケート等を通じた学生の内容理解度
- ・全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

4. 自己点検・評価結果

点検項目	点検結果
教育プログラムを構成する科目のシラバス	経済学部教科委員会（数理・統計・情報系カリキュラム編成会議）にて、データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）に準拠した内容を各科目のシラバスに明記し、それについて講義することを確認している。なお、本編成会議には、「経営情報論」「意思決定論」の科目担当者も参加している。
教育プログラムの履修・習得状況	経済学部教科委員会にて、「経営情報論」「意思決定論」の令和 4 年度における履修・修得状況についてチェックし、何れも問題ないことを確認している。
学修成果	本教育プログラムの授業科目「経営情報論」「意思決定論」の全受講者の成績分布について、経済学部教科委員会（数理・統計・情報系カリキュラム編成会議）において確認・分析し、その結果を経済学部 FD 委員会で共有することで、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート	本教育プログラムの授業科目「経営情報論」「意思決定論」の

<p>等を通じた学生の内容理解度</p>	<p>全受講者に対して、授業アンケートを実施して到達目標の達成度や学生の理解度を調査しており、その調査結果を経済学部FD委員会で確認し、経済学部教科委員会(数理・統計・情報系カリキュラム編成会議)で分析することで、本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>経済学部では令和4年度入学者よりデータ科学選択制度を開始し、本制度を選択した学生は、全学共通教育で開講されている「データ科学群応用基礎プログラム」(応用基礎レベル)が実質的に必修化されている。「経済学部データ科学応用基礎プログラム」は令和4年度に設置されたプログラムであり、データ科学選択制度以外の学生を主たる対象とし補完するプログラムとして位置づけられている。</p> <p>令和4年度の履修者は23名(2%)であったが、初年度の開講で十分なアナウンスが出来なかったこと、データ科学選択制度導入以前の学生が対象であった点から低い履修率となっている。</p> <p>経済学分野において、応用基礎レベルのデータサイエンス教育は重要であり、経済学部全学生が、全学共通教育で開講されている「データ科学群応用基礎プログラム」(応用基礎レベル)を必修化することが将来的には予定されており、これらのデータサイエンス教育体制についての周知徹底、啓発により、履修率の向上を図る予定である。</p>

「経済学部データ科学応用基礎プログラム」の履修状況

「経営情報論」および「意思決定論」の両方を履修登録した人数 23 名、修了者数 7 名

参考:「経営情報論」履修者 132 名、合格者数 41 名

A:11 B:24 C:4 D:2 F:91

参考:「意思決定論」履修者 49 名、合格者数 11 名

A:6 B:5 C:0 D:0 F:38